エコユニット活動報告書
（２０２３．７～２０２４．６）

＜エコユニット情報＞

ユニット名	エコてく。KCT			ユニット No.	10010030
構成人数	全　体（※1）	25	所属する エコピープル		
母体となる組織（※2）	企業（団体）名	株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー			
ホームページ	URL	https://www.jpkct.com/			

▲活動報告（1）

【活動名称・タイトル】

「石川県・能登沖震災復興」視察

【活動の時期・期間】

2024 年 4 月 15 日（月）

【活動内容と成果】　…参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

参加人数:3 人

2024 年 1 月に能登半島沖で起きた地震で被災した北陸（石川県）に、復興支援の一環で「石川県」の文化遺産の視察会を実施しました。

2024 年 1 月 1 日に石川県能登地方を震源とした能登半島地震が発生しました。2024 年 8 月時点で、死者は 341 人（うち災害関連死 112 人）、全壊家屋は 6,273 棟にのぼります。今回の地震では、断層の上下方向の動きによって陸側がせり上がりました。輪島市の沿岸では最大約 4 メートルも隆起しました。道路や水道管などのインフラは甚大な被害を受け、そのことから消火が遅れ火災の被害も拡大したのです。被害が甚大であることに加えて、山間地を結ぶ道路が各地で寸断されており、インフラや住居の再建には時間を要するため、震災前の生活に戻るにはまだまだ時間がかかる状況です。

【期待する活動の効果】

被害をいかに最小限に抑えるか。万全を期すことは困難だが、関心を持ち何ができるかを考え続ければならない。
能登半島地震は「半島」地域特有の被害が見られる一方、過去の地震災害と共通する課題も明らかになった。こうした課題を深く考察し、対策を検討することは、半島や地方を含む広い範囲で被害をもたらす南海トラフ巨大地震への対処、さらには将来、少子高齢化が進む都市部での大地震にどう備えるかという点からも意義深い。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】

2011 年 3 月に発生した東日本大震災は、日本における大規模な自然災害の発生は不可避であり、正確な予知も不可能であることを我々に教えた。いつか必ず来る次の災害に備えるためには、日本社会が災害に対するレジリエンスを高めなければならない。そんな考えの下、IT を用いた災害対策の開発や社会実装が日本中で進んでいる。AI（人工知能）や民生用ドローン、デジタルツイン、スマートシティ、量子コンピューターといった 10 年前は存在しなかった新しいテクノロジーも、災害対策で活用されている。今回の能登半島沖地震を契機に、当社の社訓である豊かで調和のとれた社会の構築に向け、我々自身が ICT 企業であるので、自社ソリューションが社会の課題解決（災害対策や減災対策）の一助となるような開発を行に支援を行ってゆく。

【実績】

今回の取り組みは初めての取組みですか？　継続した活動ですか？

① 初めて　　**②　継続（　　年　　月頃から）**

【ホームページ】※参照するページがあればＵＲＬをご記入ください。

N/A

▲活動報告（2）	

【活動名称・タイトル】

オフィスのエコ活動

【活動の時期・期間】

2014 年 1 月～現在

【活動内容と成果】　…参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

クリーンオフィス、グリーンオフィスを社員一人ひとりが実践する。活動内容は、以下の通り。
・本社及び各事業所メンバーによる、ペーパレス化の実施。
・紙コップを使用しない。（マイボトルの推奨）
・社内用書類の印刷簡素化（縮小印刷等）
・観葉植物設置(職場内緑化）。
・離籍時の PCOFF 対応（節電）。
・ISO14001 の取り組みに沿った、活動の可視化。

【期待する活動の効果】

・紙使用量の削減（森林伐採削減）
・消費電力の削減（発電量減少）
・目の保養(健康増進)

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】

本社勤務、現場勤務と勤務地に違いがあるため、全てのエコてく。メンバーに浸透していない。今後は、各現場にエコてく。サブリーダー（現場リーダー）を設け、本社勤務メンバー同様の運用とする。また、新事業所は計画的にプリンター等を新設せず、ペーパレス化などの対応を推進している。

【実績】

今回の取り組みは初めての取組みですか？　継続した活動ですか？

① 初めて　　② 継続（ 2014 年　1 月頃から）

【ホームページ】※参照するページがあればＵＲＬをご記入ください。

N/A

▲活動報告（3）	

【活動名称・タイトル】

献血サポーター（日本赤十字社）

【活動の時期・期間】

2021 年 9 月～現在

【活動内容と成果】　…参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊いいのちを救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアをエコてく主体で、社内で啓蒙し、有志で実行する。（本年度 2 件）

【期待する活動の効果】

・コロナ禍で、外出が少ない中、献血量が恒常的に少ない状況が全国的に起こっている。その中で、各事業所で、有志による献血ボランティアを実施する。献血については、業務時間内での活動を認めると主に、献血協力者に対しては、社内で表彰鵜とを行うようにして、参加者を増やし、身近な社会貢献について、社内で醸成を図る。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】

昨年は、福岡、沖縄事業所を中心に事業所単位で、活動に参加した。今年度は、全社や各事業所単位で旗振り役を設置して、取組について周知を図る。

【実績】

今回の取り組みは初めての取組みですか？　継続した活動ですか？

① 初めて　　② 継続（ 2014 年　1 月頃から）

【ホームページ】※参照するページがあればＵＲＬをご記入ください。

https://www.ken-sapo.jp/supporters/show?prefecture_id=13

▲活動　【指定テーマ】

【活動名称・タイトル】

エコピープルを増やすための活動（ｅｃｏ検定普及活動）

【活動の時期・期間】

エコピープル活動（加入時期）から継続的に実施

【活動内容と成果】　…参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーは、2022 年 6 月時点で 25 名になります。メンバーは、eco検定を含む環境に関連する資格試験の取得による、環境学習を積極的に行えるよう、該当資格の取得に補助や人事考課のプラス評価などの仕組みを取り入れ、「エコてく。」メンバーが主体的に向学心を持てるように取り組んでいる。（現在、4 名がeco検定を合格）また、「エコてく。」未参加のメンバーも社員全員及びその家族については、課外活動に参加できるように支援、広報活動を行う。

【期待する活動の効果】

環境に関する知識の醸成と、そこから当社の掲げるエコ活動への動機づけと日常生活におけるエコへの意識の向上とエコエバンジェリストとなることを期待している。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組みについて】

資格取得しやすい環境作りが、会社全体で行われる必要性がある。特に、持続可能な社会を目指すために、SDGs の取り組みを社内に浸透させていく必要がある。会社主体で、SDGs の活動イベントを開催して、啓蒙活動や動機づけを行っていく必要がる。また、資格試験に合格するだけでなく、継続的な学習として、世界自然遺産の見学やエコツーリズムなどに参加することで、発展的学習を図ってゆきたい。また、本年度は、社員に SDGsのピンバッチを配り、自社の取り組み含め、社外にもアピールをするように心がけた。

【実績】

今回の取り組みは初めての取組みですか？　継続した活動ですか？

① 初めて　　② 継続（ 2010 年　4 月頃から）

【ホームページ】※参照するページがあればＵＲＬをご記入ください。

【活動名称・タイトル】

★来年の計画や活動テーマ、抱負。

本年度は、地震や水害など様々な天災に見舞われた年であった。災害時に必要となる献血について、日本赤十字社（サポータ登録）の献血を個人で活動できるように社内でもサポート体制を作り、有志による献血活動を実施、推進した。一方で 4 半期に一回行っている、社内でのエコに関する情報共有会は、オンラインにて継続的に実施し、社内での情報連携に努めた。なお、次年度は、上記活動を継続的に行うとともに、前年に引き続いて 1.SDGs 事業者としての取り組みを拡大する、2.地域ボランティア（貢献する） 3.環境に関する教育（広める） 4.環境に関する知識の醸成（学ぶ） 5.グリーンオフィスを推進（実践する） 6.個人で実践する の 6 つの活動分野を深化させ、特に地域ボランティアでは、社員参加型の地域貢献活動などを通じて、社員の環境活動への動機づけや気付きなどを醸成してゆき、社員のリベラルアーツ教育に一助となるような活動とする。また、自社事業の活動で、持続可能な環境づくりに資するソリューション開発（エコフィード、カーボンニュートラル）など事業を推進し、持続可能な開発目標の達成を図って行く。